

告 辞

桜の花が咲き、春風が心地よく感じます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、令和4年度 佛教大学通信教育課程 第23回前期大学院学位記、第67回前期卒業証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができたのは、お一人お一人のご努力の賜物であることはもちろんですが、なにより、皆さんを温かく見守ってこられたご家族や友人など、周辺の方々のご理解やご支援があったからに他なりません。ご家族や保護者の方、ご支援いただいた皆様の今日までのご助功に感謝と敬意を表し、心よりお喜びを申し上げます。

さて、皆さんの学びは、新型コロナウイルス感染症に翻弄された学修であったらうと思います。通信教育課程は、そもそもが孤独な学びであります。それだけにスクーリングや学習会は、学友と交わり情報交換し、自分の学びを確認できる機会であり、楽しみにされていたことでしょう。しかしスクーリングも遠隔で行われることとなり、当初、学習会は中止に追い込まれました。たとえ実習などが対面であってもソーシャルディスタンスを保ち、離れて座り、握手もできず、せっかく出会った学友との食事も自粛しなければならず、一層の孤独感が増す中での学修は、苦しく悲しいことであったと思います。人と出会って話すこと、一緒に語り合って食事すること、大声で笑いあうこと、相手の表情を見て話すという、それまで当たり前であった日常が、かけがえのない大切なものであったことに、改めて気づかされました方も多いでしょう。

しかしそのような、孤独と制約に加え、社会の大きな変化と制限がある中での学修でも皆さんは、それをしっかりと乗り越え、自分にできることが何かを考え、行動に移し、持てる力のすべてを振り絞って着実に前に進み、本日の卒業・修了にたどり着かれています。その最中では、困惑され苦慮された場面もきっと多かったことでしょう。しかし見方を変えれば、皆さんは貴重な経験をされ、その経験を通して大きく成長できたことと思います。予期せず味わった苦労も無駄ではなく、それらの経験は必ずや皆さんの将来に役立つ糧となるでしょう。そしてこれこそが、眼の前に起こる現実をしっかりと見据え、自分のなすべきことをなすという仏教精神に他ならないのです。佛教大学での学びを終えた皆さんには、一人ひとりの学びと経験が仏教精神そのものであることを理解いただいたうえで、誇りをもって本学から巣立っていかれるものと信じています。

さて、ロシアのウクライナ侵攻は一年を経てなお、終息の兆しが見えません。本学は仏教精神に基づき人類福祉の増進に貢献することを使命として世界の平和を願い、活動しています。一方的な理屈によって他者の命を奪い尊厳を踏みにじる行為には断固として反対し、停戦と平和的な解決を求めています。私たちは、

今も苦しみの最中にあるウクライナの人たちに心を寄せ、一刻も早く平和な状態が戻ることを願い、いま自分ができるところを行っていかなければならないと考えます。

また、紛争は世界各地で起こっており、難民問題や人種差別など、世界中で平和が脅かされ人権がないがしろにされている状況があります。それは遠い世界のことではなく、私たちの日本も決して安全で安定した状態にあるわけではありません。差別やいじめ、他者への中傷等、さらには身勝手な理由による事件や事故など、家庭の平和が脅かされることが起き、人権問題も枚挙に遑がありません。私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性を持っていることを自覚しなければなりません。だからこそ、常に、悩み苦しむ人の存在に気付けることが重要であると考えます。不透明・不安定なことを見聞きすると暗い気持ちになることもあるかもしれませんが、あきらめず、希望をもって、誰もが幸せになるためにどうすればよいか、私たちは考え続ける必要があります。

その際に重要なことの 하나가、多様性を受け容れることができる社会を目指すことにあると考えます。他者との違いを認め、自分にはない他者の特徴を受け容れることや自分とは異なる考えを受け容れることで、相互に補い合い、助け合うこともできるでしょうし、結果として社会全体がより良い方向に進むものと考えます。そのような社会を目指すことが大切であり、そのためにも本当の自分を見つめ、正しく自分を認めて、自分にできることを携えて歩いていくという法然上人の「還愚」の教えを心に留め、いま自分にできることは何なのか、自分は何をなすべきなのか、自分自身をしっかりと見つめながら、考え続けていただきたいと思えます。

さて、皆さんは、孤独と制約の中でも学修時間を確保し、それぞれ研究成果をまとめ知見を手に入れられました。また免許や資格を取得し、専門に関わる優れた技術を身につけられたことと思います。本学での学びを通じて皆さん自身が獲得された力は、皆さん自身を決して裏切ることはありません。社会がどんな状況になっても、ここで得た力を存分に発揮し、佛教大学を卒業・修了したことに誇りを持って、堂々と歩みを進めてください。皆さんの歩みは、後に続くものの希望です。一人一人の歩みは希望の灯です。皆さんの着実な歩みが希望の灯となって、まわりのものを明るく照らすのです。お一人お一人の着実な歩みが希望の灯であることを信じて、どうか誠実に、そして明るく歩み続けてください。

本日で一旦、皆さんの学びは終了しますが、これからは生涯にわたって学び続けることが求められる社会となります。また VUCA と称される予測不能の時代の今、社会の変化に対応するために、新たな学びが必要とされる時が必ずやってきます。刻々と変化する社会において、求められる力を発揮するためには、学び直すこと、学び続けること、そして考える力にさらに磨きをかけることなどが必要となってくるでしょう。そのようなときにはぜひ、佛教大学に帰ってきてください。本学には通信教育課程はもちろん、大学院、オープンラーニングセンターなど、人生

の様々なニーズに相応しい多様な学びの場を用意しています。そして、悩んだり迷ったりしたときは、焦らずに立ち止まることも必要です。その時は振り返ってみてください。皆さんの学びの原点である佛教大学で、私たちは、いつも皆さんを見守っています。そして教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしております。

まわりのものを照らす希望の灯となられることを祈念し、告辞といたします。
本日は、誠におめでとうございます。

令和5年3月25日

佛教大学長 伊藤 真宏